

自動化された無意識の行動は、宇宙についての私たちの真の自己と隠された真実を明らかにしますか？ - 「力対力のレビュー - 人間の行動の隠れた決定要因」 (Power vs Force: the hidden determinants of Human Behavior by David Hawkins 412p(2012)(オリジナル版 1995)。(レビューは 2019 年に改訂されました)

Michael Starks

### 抽象

私は奇妙な本や特別な人々に非常に慣れているが、ホーキンスは、あらゆる種類の声明の「真実」の鍵として筋肉の緊張をテストするための簡単な技術を使用して際立っています。よく知られているのは、画像、音、タッチ、匂い、アイデア、人など、自分がさらしているものに対して、無意識の生理学的反応や心理的反応を示すことです。だから、彼らの本当の感情を見つけるための筋肉の読書は、それを「超常現象科学」を行うための使用棒(より多くの筋肉の読書)として使用するのとは異なり、まったく過激ではありません。

ホーキンスは、認知負荷の増加に応じて腕の筋肉の緊張を低下させ、誰かの指の一定の圧力に応じて腕が低下する原因となると説明しています。「暗黙の認知」、「自動性」などのフレーズで言及されている社会心理学には、長い間確立された広大な研究努力があり、「キネシオロジー」の使用が1つの小さなセクションであることを知らないようです。筋肉の緊張(あまり使用されない)社会心理学者に加えて、EEG、ガルバニック皮膚応答、および刺激の数秒から数ヶ月後に時々変化する単語、文章、画像または状況に対する最も頻繁な言葉による反応を測定する。BarghやWegnerなどの多くは、S1(自動システム1)を介して意識を持たずに学び、行動するオートマトンであることを意味する結果を取り、キールストロームやシャンクスのような他の多くの人は、これらの研究に欠陥があり、私たちはS2(審議システム2)の生き物であると言います。ホーキンスは、高次思考の記述心理学の他の分野と同様に、見当がつかないようですが、ウィトゲンシュタインが30年代の心理学の無菌性と不毛さの理由を述べた時と同じくらい、「オートマチック」に関する状況はまだ混沌としています。それにもかかわらず、この本は読みやすいもので、セラピストや精神的な教師の中には、それを使っている人もいるかもしれません。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、運命の惑星における「話す猿--哲学、心理学、科学、宗教、政治—記事とレビュー2006-2019 第3回(2019)」と21世紀4日(2019年)の自殺ユートピア妄想<sup>st</sup> Century 4<sup>th</sup> ed (2019)などを見ることができます。

私は奇妙な本や特別な人々に非常に慣れているが、ホーキンスは、あらゆる種類の声明の「真実」の鍵として筋肉の緊張をテストするための簡単な技術を使用して際立っています。正気の人はどうしてこれを感じることができるのでしょうか。50年以上の人として科学、心理学、哲学、宗教、人生を50年以上経験した大人の経験を持つ人として、私はそれがその人の信念について高い信頼性を持ち、このように現実を知る機会がないことを全く信用できません。よく知られているのは、画像、音、タッチ、匂い、アイデア、人など、自分がさらしているものに対して、無意識の生理学的反応や心理的反応を示すことです。だから、彼らの本当の感情を見つけるための筋肉の読書は、それを「超常現象科学」を行うための使用棒(より多くの筋肉の読書)として使用するのとは異なり、まったく過激ではありません。

キネシオロジーは、人間の運動学としても知られており、ヒトの研究である動き。キネシオロジーは、人々の精神的および肉体的地位の指標として生理学的、機械的(筋肉の緊張)、心理的メカニズムを研究し、しばしば運動演習を治療として使用する。しかし、ホーキンス(そうは言わずに)は、認知負荷の増加(すなわち、ある人、出来事または物体の言及)の増加に応じて腕の筋肉の緊張を低下させるというキネシオロジーの非常に狭い適用を指すためにこの用語を使用しています。ホーキンスは、「暗黙の認知」、「自動性」などのフレーズで言及されている社会心理学の長い確立された広大な研究努力があり、彼の「キネシオロジー」の使用が1つの小さなセクションであることを知らないようです。筋肉の緊張(実際にはまれに使用されない)社会心理学者に加えて、EEG、ガルバニック皮膚応答、および刺激の数秒から数ヶ月後に時々変化する単語、文章、画像または状況に対する最も頻繁な言葉による反応を測定する。

暗黙の認知に関する本や最近の論文を何本も読んだ後にホーキンスの本を読んだのは偶然で、宇宙の鍵として使っていることに大きな驚きを感じました。私は彼の精神的な実践を暗黙の認知に関する現代の仕事に関連付けています。

暗黙の社会的認知に関する現代研究における大きな問題は、それがどの程度自動(「無意識」)であり、これに対する「証拠」を構成するのだからである。ここ数年、何百もの論文や数十冊の本が、大きな混乱としばしば厄介な議論で登場しました。BarghやWegnerのような多くの人は、S1を介して意識を持たずに学び、行動するオートマトンであることを意味する結果を取り、キルストロームやシャンクスのような他の多くの人は、これらの研究に欠陥があり、私たちはS2の生き物であると言います。

ホーキンスは、高次思考の記述心理学の他の分野と同様に、見当がつかないようですが、ヴィトゲンシュタインが30年代の心理学の無菌性と不毛さの理由を述べた時と同じくらい「オートマチック」に関する状況はまだ混沌としています。

多くの場合、この問題は、研究者や哲学者によってシステム1とシステム2の機能の面で述べられている - 非常に有用な、私たちの原始的な爬虫類の自動化、非反射S1とS2の私たちの高皮質霊長類意識的な審議機能に行動(意図的性)の非常に有用な分割(意図的性)。私の他のレビューで述べたように、この部門は、誰もそれを実現していないが、1930年代に哲学者ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインによって開拓されました。

私は調停と悟りの現象(アディ・ダの自伝「聞き取りの膝」のレビューを参照)に精通しており、この希少なグループにいてというホーキンスの主張を喜んで受け入れます(人類の歴史の中で1000人未満の啓発された人物を知っているとよく言われています)。私はまた、彼が多くの人を助け、明らかに、彼は非常に知的である非常に効果的な「セラピスト」であったかもしれないことを受け入れることができます。これは、私が世界の事実に関する彼の多くの疑わしい、または明らかに虚偽の陳述を受け入れさせるものではありません。私はまた、人間の行動の研究に対する混乱、アトラクター、複雑さ理論、計算などの関連性について(科学と哲学の生涯に基づいて)非常に懐疑的です本(academia.edu、philpapers.org、研究e.net、vixra.org、libgen.io、b-ok.org、アマゾンなどに関する私のレビューや本を参照してください)。私は暗黙認知研究は、因果脳機能(S1マインド)に関する事実に基づく真または偽の科学的問題の通常の恐ろしい混合を含み、言語の仕組み(すなわち、ヴィトゲンシュタインが1世紀の3/4を示したように、心は公共の行動である-S2マインド)、私のレビューで広く取り上げてきた他のトピック。

だから、ホーキンスは彼の筋肉の読書の多くを作り、私はそれがしばしばうまくいくと確信していますが、ここで大きな論理的なエラーがあります。テストされている人の信念について何を言おうと、それは明らかに世界自体について何も言いません。だから、私はホーキンスと彼の治療の仕事を尊重しますが、精神的、感情的な癒しへのアプローチの広大な配列で、選択肢がたくさんあります。そして、それは非常に存在(あるいは彼らの考え)が垂鉛めっきすることができ、そして普通の人によって扱われることは全く別の、啓発されたマスターによって扱われることの一つです。仕事で啓発されたマスターの本、オーディオやビデオのはるかに最高のソースは、様々なサイト上のネット上で購入または無料で利用可能であるOsho(バグワン・シュリー・ラジニーシュ)のもの。彼は時折一度に何千人もの人々を魅了し、彼の周りのすべての時間の中で最も顕著な治療コミュニティを作成しました。彼はいなくなりましたが、彼のセラピストはまだ世界中で練習し、彼の作品は変革的なことができます。

ホーキンスは、多くの好意的なレビューを持っている他の本を持っているので、深く興味を持っている人は、それらを相談することができます。